

きざりのさと

NO.93 月刊

昭和四十一年三月一日 発行 (非売品)
 岡山県都窪郡吉備町東町二五五号 地方電話四三七番
 吉備観光協会 会
 第89号

○了性山中正院 (その二)

当寺の再建は松林寺の本堂と同年代は云うまでもない。庫裡は古用板をもつて建築した。寺地は旧藩時代、庭瀬藩が犯罪人を留置した刑務所の屋敷であったといわれ、その遺構として東から南へ濠を繞らしてゐる。これは城郭の外濠でもあつたのである。

門前の題目石碑は安政六年の建立にして、当寺再建以前に属することは確實である。レガレて「当折講中」とあるので、どこかの路傍にあつたものを再建後ここに移したものであつたか、或は以前からここに安置されてゐたものか判断とした証據はない。

寺宝として大衆妙典一巻がある。これは法華經の一部を寫筆したもので、奥書に「円理院 淨悦日貞 俗名野崎助三郎貞則 享保十九甲寅十月日年七十五歳」とありまた元禄十三年庚辰三月貞則が四十一歳の時に、自ら刻んだという高さ七寸の日蓮聖人の木造坐像を安置してゐる。これは貞則の両親の淨貞、妙貞の安樂報恩謝徳のために奉納したものである。

貞則は野崎幻庵翁(落七輯人物篇参照)の先祖にして墓標は大塚山の野崎家墓地にある。寛保二年十月廿九日没と銘記してあるので八十二歳の長寿を保つてゐる。淨貞は俗名を野崎四郎兵衛といひ、妙貞を「野」^{いさ}とす。北沢の年令は明ではないが、貞則が四十一歳の時に父にゆかれ十年後の五十一歳のおりに母を失つてゐるので恐らく両親とも七十歳前後で此世を去つたものと考へられる。

また寺宝として厨子に納められた鬼子母神並に十羅刹女の尊像を安置してゐる。厨子は高さ八寸横六寸縦四寸五分、黒漆塗にして両扉扉になつてゐる。内扉は三段にくぎられ鬼子母神(夫婦)とその子十羅刹女、高さ三寸の木造金漆塗の十二体の立像と、別に木彫りの日蓮上人の坐像一体を納めてゐる。厨子の裏面に

「奉造立 鬼子母神 十羅刹女 為御熊好俊童女菩提也、重是故運長久子孫繁昌即已 願主 備前住人戸川又左衛門尉 内儀 妙立敬白

寛永六己歳十一月良徒

と、朱漆の筆で書いてある。銘に戸川又左エ門尉とあるは石斐院(大坊)の位牌に正見日等戸川又左エ門延令とある人にして、庭瀬藩初代の領主戸川肥后守達安に仕えた重臣にして緑丸百三十石を食み栗坂村(庄村)を支配し、万治二年六月十七日逝去してゐる。墓石は不斐院内にある五輪塔婆ニ墓のうしろ右側がそれである。内儀は同位牌に「淨悦院日秀、延宝七年四月七日没」とあり、これが妙立ではないかと思ふ。寛永六年は延宝七年より五十一年前である。娘の態が幼時にして北去したのでその冥福を祈るために寄進したものである。こう考へると五十一年前であるから妙立の北を七十歳前後と假定して十八、九歳頃となり初産の子と思はれるのである。

(鬼子母神にフソくは第十輯祭田海信院寺の鬼子母神の項で述べたが、この神像は十人の羅刹女の母親である。羅刹女とは悪鬼のことでは藍婆(らんば)毗藍婆(いらんば)曲齒(こくば)華齒(けし)黒齒(こくし)多鬘(たぼつ)無厭足(むえんぞく)持瓔珞(じようらく)皇諦(こうたい)一人欠(ひとりく)といひ、大鬼神女であつた。母の鬼子母神と共に醜悪な性格で、ゆが子のためなら、他人の子を殺すこともしない。といふ過つた女性才能(ア)であつたが、佛法の偉大な法力によつて法華經を誦讀し、一轉

して法華守護の大善神となり、世の中の悩める人々を擁護したという。當寺は左の護符を檀家に配布せらる。一尺二寸、横三寸二分。

如日月光明能除諸苦冥 良性山
南無宗祖日蓮大菩薩護之彼
斯人行世間能滅衆生闇 中正院

当山は昔から平野の中正山子性寺と最も深い關係があり、歴代の任職は隠居して性寺に入る例があつたので、諸任職の墓標も

殆んど了性寺の墓地にたてられていたようである。正確なことは期しがたいが、過去帳と墓銘によつて列記した。

- 一、如院日堂聖人 元和九年八月六日寂 (墓石見あたらず)
- 二、中正院日堂聖人 寛永十九年正月二日寂 当山開祖(墓石あり後在建碑)
- 三、心性院日遠聖人 寛永十九年三月五日寂 (墓石見あたらず)
- 四、寂隆院日乾聖人 寛永十三年三月三日寂
- 五、靈鷲馬院日審聖人 寛文六年三月十四日寂
- 六、微善院日盛覚 元禄十六年九月四日寂 (墓石あり)
- 七、中正院日持比丘 享保十二年四月廿八日寂
- 八、淨比古 日淳比丘 寛保元年十二月十九日寂
- 九、八世 中正院日珠覚寛延四年閏六月廿六日寂
- 十、当院九世中正院日明覚 判讀しぬたし
- 十一、十世見明院日照 天明七年六月五日寂
- 十二、純明院日逞覚 文化七年十二月十二日寂
- 十三、永壽院日円大徳 文政五年六月十日寂撰津國能勢岡崎村の出身 墓石あり

中正院は了性寺と山号寺号を互に使つており、従つて任職も兼帯のこともあり、錯誤してゐるので區別しがたく、十四世以下は正確を知る方法がないので、書きなぐりにした。

- 一三、貞成院日觀大徳 文政十二年四月四日寂備中妹尾の出身
- 一四、境性院日能聖人 天保二年卯年十二月廿七日寂
- 一五、淨益院日秀比丘 天保十八癸丑年六月九日寂

実相院日榮法印 嘉永七年二月十四日寂

十三世本昌院日蓮聖人 明治廿一年五月廿日寂伯州八橋郡笠見村出身

隨心院智老日生法尼 明治十一年十一月二日寂 大坂の出身

本具院智仙日淨法印 明治廿六年九月十八日寂 長野村安井久七の倅

智円院日進法印 明治廿五年旧正月九日寂 墓石なし

隨妙院智善日種禪尼 北没年月不詳

遠妙院日量大徳 明治廿八年旧十月六日寂蓮昌寺中覺善院前任当山苗主居鈴木高遠 (亦了院に移り示寂す) 墓石なし

織田慈観 明治四十二年九月十日寂七十三才当山ニテ遷化、蓮昌寺四十八才了性寺開居四ヶ年、私職ヲ投ジテ置襖物置台所用所修覆庭樹數十其他蒲團器具ヲ納ム 墓石なし

大坂に移り大正三年遷化すという。昭和三十五年三月廿八日遷化七十六才俗名横山清赤磐郡五城村出身

本智院日明上人 明治廿一年四月十日寂淡口郡黒崎村出身
上座院日藤上人 俗名珠和文翔昭和廿八年十月廿三日遷俗して東京に移る
徳進院日顕上人 俗名浜田惠海佐賀県東松浦郡呼子村出身 現住

○墓地にある主な故人の墓標 (墓地は四寺址、正善院と大泉院の中間にある)
 渡辺家の墓標 (板倉氏の家臣)

一 渡辺福二之墓 文政八丁酉年正月二十日
 蘭室妙範信女 弘化四丁未歳三月三十日

一 玉琳院英岳貞蒼大姉 安政三丁卯年四月十七日 渡辺壽吉源信元嫡女俗名牧行年廿有
 知足者龜山信色居士 慶應三丁卯年八月朔日卒壽九十有二歳渡辺男鳥源信色墓 (卒)

一 大通院性道信元居士 明治二己年十月八日卒渡辺壽吉源信元年五十五
 信光院貞質智元大姉 明治廿一年一月廿三日卒年七十一

一 青雲院縁室智英大姉 明治七甲戌年五月十七日卒渡辺源頼墓享年二十四
 青龍院英岳宗俊居士 (女には没年月日なし遂修によるものか)

一 自扶院玄道惠道居士 渡辺庫夫 行年二十七才明治二十八年六月九日卒
 一 智玉日老狭女 明治三十年八月六日渡辺要次郎長女同苗志津

一 智現日芳狭子 明治四十年八月廿二日去渡辺要次郎次男 雄 行年五才

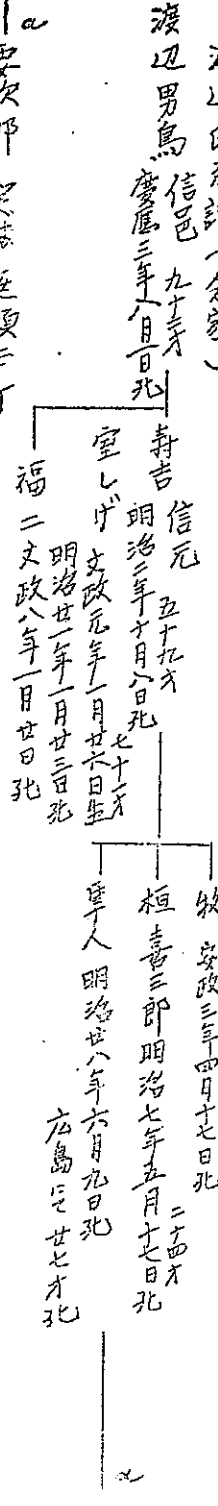
一 渡辺要次郎夫婦之墓 高木久太郎次男昭和十四年三月十九日行年六十九才
 温源院厚徳日世居士 吉備郡阿曾村大字西阿曾宗久衛二女俗名渡辺豊野大正五年六
 温厚院妙善日世大姉 月十一日逝 行年四十二

渡辺信元は渡辺藤大夫信義(第三輯寺院篇松林寺参照)の支流にして、明治二年十一月板倉家家臣帳に御年寄、祿高百二十石とあり、庭頼藩(彦根園)に信元の名が見え、喜三郎と記載してゐる。この喜三郎は同家臣帳に御近習給人三人扶持にして壽吉(信元)が明治二年の十月に北七してゐるので、相續人の桓の幼名である。

渡辺家は壽吉が没したの子はまだ切なく、加ふるに廢藩となつてその脈を失ひ、その上、ブルも才前後でなくなつたので庭頼の豪商川野屋高木久太郎(いまの川野屋醤油業の前身)が名家の絶えるお慶元次男の要次郎をして家督を嗣がしたのである。

もと渡辺家も高木家も臨濟宗であつたが、要次郎の祖父久五郎の時日蓮宗の信者となり中正院の檀方となつたので、要次郎が渡辺家を継ぐようになつて大塚山の墓地にあつた渡辺家累代の墓石をここに移したのである。旧屋敷は庭頼藩邸の大手門を入つて西に曲がる道の南角であつたが、廢藩後要次郎が道を隔てた東側の同じ御年寄を勤めた森岡喜多右エ門の旧屋敷を手に入れた、ここに広大な邸宅を構へ、木商を管んていたが、要次郎の死後昭和三十年頃辛白縣太郎に百萬円ばかりで屋敷全部を売却つて子孫は東京へ移つたのである。(第七輯人物篇高木久太郎参照)

△ 渡辺氏系譜(分家)

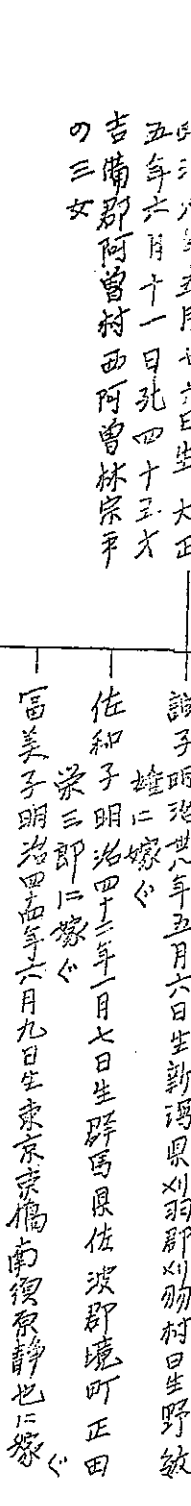


一 要次郎 實は庭頼本町

川野屋高木久太郎の次男
 明治四年十二月廿四日生、昭和
 十四年三月十九日死六十九才

室 豊野
 明治八年五月廿六日生、大正
 五年六月十一日死四十三才

吉備郡阿曾村西阿曾林宗平
 の三女



高木家系

高木宗兵衛 一 仲右工門 一 善五郎

寛大正二年二月十三日生 在東京

久右工門 一 崇三郎 十八才死
久右工門 一 善秀 十八才死

廣三郎 昭和七年五月留北廿四
梅野梅葉院妙正日行大姉

高木家の墓地は大塚山にあり。

久太郎 渡辺家を継ぐ
多鬼 明治十五年四月四日死三才
能布 明治十二年七月一日死
清 高木家を継ぐ 任東京

一、一心院妙勝信女安永六丁酉年四月十九日
仙峯院周詣信士文化八年十月廿七日高木宗兵衛

伯山院妙秀信女寛政四壬子年八月晦日

一、自照院舟顯信士文化元年甲子年六月朔日高木仲右工門
照山院妙貞信女天保十庚子年十月十三日早島 太田氏娘 和佐子

一、春静院鷺山信士文政十二年丑三月三日高木善五郎

一、貞静院妙詰信女慶應四年辰閏四月十八日 同妻 川入村賜本作右工門女きぬ行年七十七才

一、秋月詠観信士 文化十甲戌年八月十九日 高木八十八

一、勇進院智通信士慶應四年辰年四月十日高木崇三郎行年十八才

一、智耀日信瑛子 明治十二年丙午七月朔日高木久太郎長女 能布境
智老日清董女 明治十五年丙午四月四日行年三歳高木久太郎二女多鬼境

一、久遠院実権日詣 聖 明治三年庚申五月十二日高木久五郎行年五十六才

一、華老院妙実日善 聖 明治五年辛巳八月十七日 同人妻宮内浅沼榮三郎妹益野享年六十四才

一、望相院淨惠日顯居士 大正十一年二月十八日坂二代目高木久太郎享年五十九才
実足院妙相日田大姉 上房即高梁本町藤野儀子長女 妻貞 (逆修であらう)

永代供養料金七百円

一、積善院勇誠日徳居士

一、續徳院妙珠日静大姉 昭和十四年三月十二日行年九十二才吉備郡阿曾村(徳社市)大字
西阿曾 林 芳安附五女妻俗名高木里ゆづ

高木君諱春秀久太郎延瀨人老久右衛門地沼沼氏家世商賈年二十六歳先業孜孜年家道大興

宣林氏等三男二女二女鬼文明治三巳以老隠讓考福久右衛門長子三郎嗣襲福久太郎君資

性温厚篤寛為衆所推舉町會議員数次屢散金穀奉神佛恤窮氓事聞官賞賜木盃數回

晚年嘗與自適以書画古玩為樂 大正七年一月八日逝距其生弘化二年一月十一日享年七十

四 永代供養料金八百円

大養 毅 文并丹書

○ 松田氏の墓石 (妹尾戸川氏の家臣)

一、松月院友正聖 享保十八癸丑九月廿日 俗名杉田(以下不明)

一、題目 鷺峯院詠覚日照居士 寛政六甲寅五月七日俗名松田藤右衛門老雅墓

花はちり終に菩提の身となりぬ あと深へゆけ法の口の糸 印計 (口印は不明)
六道のちまたありとむまよまじ 本来空へ帰る身なれば
我たのむ人をわすれぬ印には さわれはかかす道紫の露

(妹尾所盛隆寺の東北の丘陵に妹尾戸川知行所の日屋敷とある。いまは妹尾劇場にな

つている。石がき石段など昔のま、一部残つてゐる。背後には往時の鐘守稲荷明神を祭

つた御宮がある。その石鳥居の柱石に「奉獻回 清右工門長近 松田藤右衛門老雅 井

上郡右衛門永春 室 佐次右衛門宣重」の回家臣の名が彫つてある。また拝殿に近く

石鳥居には「慶應元丙寅年九月吉祥日」。石灯笼には「天明孫平治真教文化六歳己巳九

月日」。隆輝天王と刻んだ自然石の石燈獅子の台石には「慶應元乙丑年五月吉日、戸川達

毅」。石灯笼には「文久二年丙午十二月十一日前田忠兵衛義盛」など、いづれも回家臣の

奉納にかかるとある。

一、貞節院妙塚日正大姉 天保七丙申十二月五日去松田富休妻七十九
 一、微妙院勇精日進居士 天保三年生辰夏六月十一日以病卒于家享年三十一葬于光堂
 孝子 富之丞 謹達 (九年) (松)

○ 角田家の墓標 (板倉氏の家臣にレテ、享保十四年家臣帳に徒士二丙二歩角田七右工
 内。明治二年の家臣帳に外縁中小性取被七石三人扶持角田陽一郎とある)

一、顯示院淨忠 各靈 元禄十六癸未六月二十二日 角田氏
 十如院妙是 各靈 元文第二丁巳 九月二十八日 角田氏

一、理性院了雲 各靈 明和四丁亥 十月初四日 角田氏
 理應院妙心 各靈 享保九甲辰 九月廿九日 角田氏

一、法順院清休日淨信士 元文二丁巳年四月五日 施主 角田氏
 順淨院妙清日休信女 享保七丁丑年九月四日
 淨秋信士 安永元壬辰年七月十日 (角田七右工内か)

一、蓮壽院宗傳日唱 延享三丙寅三月廿一日 角田氏
 色聲院妙傳日法 延享十二乙丑八月朔日 角田氏
 善入院宗内日信 安永六丁酉十一月五日 角田氏
 遠壽院妙信日丹 靈 角田氏

一、園林院妓樂日遊信士 安政三丙辰年二月十六日角田作右衛門在沃墓
 一、深進院顯入信士 文政五壬午七月十七日 角田六右工内左高墓
 進行院妙香信女 安政六己未十二月廿五日 (金)

一、義瑞院漢達信士 明治四年辛未十一月二日 角田均一郎夫婦墓
 本瑞院妙漢信女 明治三年庚午五月十九日

一、幽遠院義道信士 庭瀬町士族角田金一郎長男在齋大正七年十二月七日行年五十九
 智道院妙遠信女 足守町士族林 軍記長女ミカノ行年七十九昭和十年七月二十三日没
 ○ 足立家の墓標 (板倉氏の家臣にレテ、享保十四年家臣帳に近習給人祿高百石足立宅
 之進。明治二年の家臣帳には御取次祿高六十石二人扶持足立陽助とある)

一、礼樂院立真日啓信士 安政元甲寅年八月廿七日終焉 足立善右衛門正時房
 礼智院妙勝日実信女 不明 足立善右衛門正時房 妻 正時房 出能旅
 辞世 不明 足立善右衛門正時房 妻 正時房 出能旅

足立善右工内一時光 養子 安政二年十月十八日生 三十七才
 孝登美 天保三年十月廿日生 妻 音羽 安政四年一月十三日生
 北不詳 明治廿四年六月廿二日岡山下西川死
 下道郡市場村浜田久馬の妻

○ 足立氏は譜代の臣である。初代庭瀬藩主板倉重高の曾祖父に当る板倉重矩が乳鬼の時、乳母となつた家筋である。「板倉信記」に足立の乳母を尋ねし乳を給う。乳人は娘春、後子に佐咲と申す。是れは足立平左工内の母なり。江戸大供町に住す云々。とある。

足立氏の先祖の平右工内と重矩は乳兄縁に在るわけである。重矩が死去して鳥山城(榜本原)を明彦レ、岩槻城(埼玉県)へ移封の時平右工内は番頭を勤めていた。
 おわり(二の項未完)

ホンダサービス
 スターシヨン
 各種二、三輪 販売、修理
 吉備局電二五三番・有線一〇九

吉備町・中田
 平松モーターズ
 吉備局電二五三番・有線一〇九

飲食物 一式
 山陽線庭瀬駅前
 よこや旅館
 吉備局電三一九番